



SOROPTIMIST
Best for Women

日本5リジョン共同プロジェクト

ソロプチミスト絆プロジェクト

Heart to Heart

報告書



絆プロジェクト *Heart to Heart*

5リジョン共同プロジェクト

◆趣旨および名称

国際ソロプチミストアメリカ日本5リジョン(中央・東・北・南・西)は、2011年3月11日に発生した東日本大震災により遺児・孤児となり、就学が困難になった高等学校生徒に対し、高等学校就学資金の一部を給付する。『国際ソロプチミストアメリカ日本5リジョンは、その学資を、ソロプチミスト絆プロジェクト～Heart to Heart～支援金(以下「支援金」という)と称し、それを受けるものを、ソロプチミスト絆プロジェクト～Heart to Heart～支援生(以下「支援生」という)と称する。』

◆資格

東日本大震災による被災区域内で、被害が特に大きかった、福島県、宮城県、岩手県に所存する高等学校に入学を希望する生徒で、震災による遺児・孤児となったもの。
主として、向上心に燃え、学業、品行、健康共に優れ、将来、良識がある社会人として活動できる見込みのある女子生徒とするが、男子生徒を排除するものではない。
就学上の支援金を希望し、かつ必要と認められるもの。

◆支援内容 一人当たり月額3万円 高校卒業までの3年間(開始2014年4月)

◆応募書類

支援生申請書・在学中の中学校校長による支援生推薦書・作文
入学決定後(誓約書・本人名義銀行口座・高等学校入学(在学)証明書・戸籍謄本)
「ソロプチミスト絆プロジェクト～Heart to Heart～」に関する規程による。



日本北リジョンガバナー
高田 テル子
(SI寒河江)

絆支援に感謝をこめて

「東日本大震災で被災してから、私は多くの方々に支えていただきました。今度は私が、多くの人々の心身、そして被災地の復興を看護師として支えたい、と考えるようになりました。温かく支えていただいたおかげで、とても有意義で充実した生活を送ることができています。本当にありがとうございました。」 M.Y生

「前畑沙織さん(19)は中学1年だった11年3月11日山田町の自宅にいた母(38)や姉(20)らと共に津波にのまれ1人だけ生き残った。その後同町の祖父母の家で暮らし、岩手県立宮古水産高等学校に入学、絆支援生となる。震災時に受けた支援の恩返しの中で、経済的な理由で生理用品を買えず学校も休みがちのケニアの女の子に布ナプキンを届けるプロジェクトに参加し、震災で助けてもらったから分かる『支援のありがたさ』に、他人の役に立ちたいと決意した前畑さんは今年4月から布ナプキン700個を製作中である。前畑さんは現在仙台青葉学院短大2年生として在学中です。」



ワークショップで布ナプキンを作る前畑さん達
2017.6.29 岩手日報

東日本大震災から6年、支援生の中から被災地復興に携わる人が出て活動なさっていますことを、ソロプチミストとして共に喜び合いたいと思います。

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、今なお震撼させられる記憶として深い傷跡を残しています。しかしいち早く国際ソロプチミストアメリカ日本5リジョン始め世界中の会員から愛の手が差し伸べられました。

国際ソロプチミストアメリカ日本5リジョンはソロプチミスト奨学金「ソロプチミスト絆プロジェクト～Heart to Heart」を6年前に立ち上げ、2011年秋に1回目の支援生を募り、現在まで計153名の支援を実施しています。2017年度3月に15名が無事卒業を迎えることができました。この支援生の卒業を以って2017年6月30日支援を終了いたしました。これまでの卒業生が強い心で輝く未来を手にしてほしいと願っています。

これまで支援生を温かく見守り続けてくださいました多くの方々にお礼と感謝を込めて6年間の支援の経過報告書を作成いたしました。



日本中央リジョンガバナー
大島好恵
(SI名古屋)

東日本大震災の半年後に立ち上げられた絆プロジェクトは日本5リジョン初の大きな共同プロジェクトであり国内は勿論のこと海外からも大変な善意が寄せられ、153名の高校生に一人108万円の奨学金を給付するという大きな事業の達成を得ることが出来ました。

この事業により各クラブの会員もソロプチミストが全国的な否、国際的な組織であることを再認識し結束力の偉大さを実感したものと思います。

一方給付を受けた高校生から寄せられたメッセージには逆に私たちが励まされることも多々ありました。

被災地の合同卒業式で何人かの高校生が共に歌った「ふるさとーころざしを果たしていつの日にか帰らん〜」の場面に涙が溢れ出たのを思い出します。高校生達にとって世界中の人々から受けた善意と貴重な経験は今後の人生において強い精神力となるものと確信し、豊かな人生を歩まれることを願って止みません。

このような意義深いプロジェクトを発案され実行された当時の5リジョンガバナーを初め関係各位の皆様に尊敬と感謝の意を表します。



日本東リジョンガバナー
村上道子
(SI東京一新宿)

絆プロジェクトの奨学金を受けて学ばれたすべての生徒さんたちに心からの励ましと、そしてお礼を申し上げます。未曾有の被害をもたらした大震災の後、まだ10代半ばであった皆さんが懸命に生き、夢を見つけて進んでこられたその力、その姿に胸を打たれ、応援させていただけたことに深い感謝を覚えております。

震災から1ヶ月、東リジョンでもまだ大きな余震が続くなか、国際ソロプチミスト会長とアメリカ連盟会長、事務局長は微塵の迷いもなく来日され、「大変な時だからこそソロプチミストは集まります。力を合わせます」と被災地の方々を思って涙のスピーチをされました。当時の5リジョンガバナーの構想による絆プロジェクトは、日本全国のソロプチミストはもとより、世界中のソロプチミストの思いを受けて誕生しました。絆プロジェクト卒業生の皆さまにソロプチミストは世界の国々から、日本の各地からエールを送り、幸多かれと祈っております。



日本南リジョンガバナー
太田瑞穂子
(SI飯塚)

2011年3月11日は私たちにとって決して忘れることのできない日でございます。観測史上最大規模の災害を目の当たりにして、誰もがなす術もなく呆然とする思いでございました。そのような中、いち早く、日本中、世界中のソロプチミストから義捐金が寄せられて「ソロプチミスト絆プロジェクト〜Heart to Heart〜」が立ち上げられました。設立当時の方々からは、まさに「真摯なる友情の賜」であったと伺っております。

それから6年、153名もの支援生の皆さんが進学の道を進み、夢と希望を育んで、学び舎から巣立って行かれました。来たる社会の担い手として遅く成長なさいますようご期待申し上げます。

今日まで、温かく見守り支え続けて下さいました、全てのソロプチミストの皆様に厚く御礼申し上げます。そして、プロジェクト運営の実務に携わって来られた、北リジョンの歴代理事会ははじめ会員皆様の多大なご尽力に深く感謝申し上げます。



日本西リジョンガバナー
金子幸子
(SIローズ福山)

2011年3月11日カーナビに写った光景！日本列島の全周が真っ赤に点滅していました。何ごと?...家に帰ってTVを見た時のあのショックは、今までの私の人生では経験のないことでした。それが「東日本大震災」でした。

日本北リジョンは、すぐ4月に就学支援「ソロプチミスト絆プロジェクト〜Heart to Heart〜」を立ち上げ、これまでに高校生153名にひとり108万円の支援をされました。

6年経った今、支援を受けた方たちの感謝の手紙を読んで改めて企画の素晴らしさを感じています。両親を波にさらわれた子、自宅全壊で家族を奪われた子、父子家庭でその父を失った子、どんなにか大きなショックだったことでしょう。でも彼らはそれらを克服しようと前を向いて進んでいます。このプロジェクトは2017年6月をもって終了となりましたが、企画・実行なされた日本北リジョンの関係者に深く敬意を表します。又世界中のソロプチミストの優しさを誇りに思います。



2010-2012年期
日本北リジョンガバナー
篠島恵里子

ソロプチミストの心

2011年3月11日、千年に一度と言われる未曾有の地震による大津波は、北リジョンの東北エリアに甚大な被害をもたらしました。思い起こせば、通常のリジョン運営ではない想定外の任務が待ち受け、当時ガバナーとしてどのように対応し、どのよう乗り切っていくのかが大きな試練の時でした。そして世界中から日本中からソロプチミストの真心が届き、その思いを受け「ソロプチミスト絆プロジェクト～Heart to Heart～」がスタートしたのです。思い起こしますと、2011年7月モンリオールで開催の第19回国際大会では5リジョンガバナーの皆様と共にステージにてお見舞いの言葉と共にいただいたご寄付のお礼を申し上げ、被災地の状況をご報告したことは忘れられない体験の一つでした。世界中からのそして日本中から多額のご寄付をソロプチミストらしいプロジェクトで最大限に生かすことができ、お陰様で153名の遺児孤児の生徒の皆様にはひと月3万円を3年間、一人に計108万円を支援させていただくことができました。プロジェクトの募集要項、規程、会計監査人や弁護士を選任、県の教育委員会や被災地中学校校長先生たちへのご周知やご説明、振込みの方法、名簿や財務管理、その他の多くの課題をクリアし、大きな責任を背負い日本5リジョンのプロジェクトとしてスタートさせたことが思い出されます。このたび無事に終結できましたことは、日本中の会員皆様、各リジョンガバナー皆様、各リジョン理事会メンバー、被災地クラブで応募生徒を探してくださった会長様、会員皆様や各関係各位のご協力、ご理解お力添えのおかげと思っています。

世界と日本のソロプチミストの温かい心が結び合い、生徒皆様への明るい未来に繋がる支援ができた「ソロプチミスト絆プロジェクト～Heart to Heart～」はいつまでも私たちの心に残ることでしょう。ソロプチミストの皆様へ心からの感謝を申し上げます。



日本中央リジョン
ガバナー
池内佐和子

日本東リジョン
ガバナー
高橋すみ

日本南リジョン
ガバナー
木下朝美

日本西リジョン
ガバナー
田村裕子



福島県副知事 松本友作様



震災直後の南三陸町



SI石巻とSI石巻サン・ファン会員



SI気仙沼会員と

支援生との心の交流

私の夢は、栄養士か看護師になることです。母は応援すると言ってくれていますが、父が震災で亡くなったので大変だと思います。震災でたくさんの方が亡くなったのに、私は幸運にも助かり、今、生きています。絶対に夢を叶えるために進学したいのです。どうか支援をお願いいたします。
(T.Mさん)

大震災の日、父は消防団員の一員として活動をし、自らが逃げ遅れ津波に流されてしまいました。父は自分が危険だとわかっていながら自分の役割を全うして亡くなりました。私はそんな父を誇りに思い父のような勇敢な人になりたいと思います。支援していただいた方々の優しさを自分のものにして、いつかその優しさを返していければと思います。勇敢さと優しさを持って、復興に役立つ人間になりたいです。
(Y.Mさん)

母子家庭であったその母が津波で亡くなってしまった。現在は3人姉妹の長女としておばさんの家で暮らしています。私は将来、困っている人たちに協力できるような活動に携わっていきたくと思っています。東日本大震災で被害を受けた私たちに一生懸命支援してくださる人達に、とても感謝しているからです。夢は語学に関わる仕事に就きたいと考えています。高校へ行けたなら、文武両道頑張って精一杯夢に向かって生きていきたいです。
(K.Mさん)



2012-2014年
日本北リジョンガバナー
遠藤 妙子

『絆』

～支援の向こうに、パステルカラーの夢広がる～

午後2時46分。水と風と花の織り成す季節の中で、静かに目を閉じると、あの日の想像を絶する光景が浮かんで参ります。

自然の猛威に死者・行方不明者19,000人、遺児・孤児になった子どもたちは1,688人にも達し、更には、原発事故にも見舞われました。

未曾有の大震災に、私たち理事会は即刻、祈る思いで被災地に向かいました。恐怖と不安を増幅させている会員の皆様との涙、涙の対面。お互いに抱き合いながら無事を確認し合った当時のことは、昨今のごとく、記憶の底に畳み込まれています。

震災直後より、世界中のソプロチミスト会員の皆様から、北リジョンへ温かな支援が寄せられ、早速「ソプロチミスト絆プロジェクトHeart to Heart」が立ち上げられました。向学心に燃え、学業・品行・健康共に優れ、将来良識ある社会人として、活動できる生徒さんたち153名が、多くのソプロチミスト会員皆様のご協力によって、選ばれました。

6年間、私たちは支援生の皆さんとの、心と心の絆を深めながら支援を続け、大切な青春時代に寄り添って参りました。2017年3月31日。153名の絆支援生が無事卒業を迎え、未来への展望が開けたことに、感無量でした。

爽やかな5月の風に吹かれながら届いた、支援生たちからの心揺らすメッセージです。

“この震災で、助け合うことを知った。僕は将来、人の役に立つ人間になりたい。”

“自分が一人でないことを改めて知った。繋がっている。支えられている。”

“母と同じ美容師になります。うれしい！美容師の資格取得も、もうすぐです。”

計り知れない程の心の傷を、新たな志に変え、夢や目標の実現に向け、確たる歩みを進める絆支援生の皆さんに、私たちは心からのエールを送り続けます。



日本中央リジョン
ガバナー
千 容子

日本東リジョン
ガバナー
吉住 喬子

日本南リジョン
ガバナー
市ヶ谷 洋子

日本西リジョン
ガバナー
藤井 信子



福島第一原発事故



奇跡の一本松レリーフ



ハナ前国際会長と絆支援生との交流会



支援生にお贈りしたクリスマスカード

支援生との心の交流

私には介護福祉士になるという夢があり、進学しようと決めています。今年度から進学クラスに進み、他人と競い合いながら一生懸命頑張っていくと思っています。こうして私に支援をしてくださる皆様、支えてくれる家族、友人、親を失っても私を支えてくれる方々が多いのだと、常に胸にとどめてこれからも頑張っていきます。
(M.Kさん)

私にとってこの一年間は本当に「感謝」の年だったと思います。これからもたくさんの人への感謝の気持ちを忘れず、そしていつか恩返しができるようこれからも努力していきたいと思えます。震災から3年が経ち、被災地も大分落ち着きを取り戻してきました。しかし、元通りになるまではまだまだ時間がかかります。ボランティア活動などに進んで参加し、少しでも宮城県の復興に役立つ活動ができればと思います。
(Y.Tさん)

素敵なカードに書かれた温かいメッセージ、とても嬉しかったです。全国の方々から日々支援をいただき、とても心強いです。私も自分の目標に向かって頑張っていきたいと思えます。そして、誰かの役に立てるような人間になりたいです。
(U.Kさん)



2014-2016年期
日本北リジョンガバナー
潮 まどか

被災地の子供たちの夢を未来へつなぐ

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、豊かな自然に恵まれた東北の暮らしを一変させました。「震災により孤児・遺児となった子供たちの未来まで奪われてはいけない」と女性の奉仕団体だからこそ出来ることとして、日本5リジョンの総意で立ち上げられたソロプチミスト絆プロジェクトは、2012年4月から延べ153名の高校進学を支援することができました。ソロプチミストとして力を合わせたひとつの大きなプロジェクトが無事終了したことに深い感動を覚えます。

2014-2016年期は、2015年3月に第1回支援生の子供たち63名が、無事一人もかけることなく卒業しました。震災直後の無我夢中の時を経て生活や心情の変化が重なり、高校生活に戸惑う生徒さんが見られるようになった時期でもありました。理事会メンバーで生徒さんや保護者・学校に連絡をとり、あるいは推薦した被災地クラブをお願いして出向いて頂き、何とか高校生活を続けるよう励まして苦勞したことが思い出されます。

そんな中2015年の夏の全国高校野球甲子園大会で、岩手県代表花巻東高校のレギュラーとして支援生が活躍したこと、2016年の第30回日本北リジョン函館大会には支援生代表の女子生徒が、同じく支援生だった姉と共に登壇し、晴れやかに未来の夢を語ったことなど、嬉しい出来事もありました。震災で被災されたお年寄りが、「これからは若い者の時代だ、教育だ。若い者を助けてやってくれ。」とおっしゃったことが忘れられません。そして支援生たちは「支援される側から元気を届ける側になりました!」と話してくれています。いつか東北の地でその力を発揮してくれることでしょう。世界中のソロプチミストのご支援に心より感謝申し上げます。



日本中央リジョン
ガバナー
良本 淑子

日本東リジョン
ガバナー
庄司 路子

日本南リジョン
ガバナー
三島 寿子

日本西リジョン
ガバナー
井上 恭子



卒業お祝いカード



絆支援生 甲子園で活躍
花巻東高等学校 3年 C・K君



第30回記念日本北リジョン大会にて 支援生 川崎紗弥乃さん(中央)



陸前高田市震災復興状況

支援生との心の交流

クリスマスカードありがとうございます。私は岩手県立高田高校に通っている高校2年生です。メッセージとてもうれしいです。「継続は力なり」この言葉は私も大好きな言葉です。この言葉信じてこれからも前を向いて頑張りたいと思います。
(F.Mさん)

ソロプチミストの皆様
こんにちは。私は弘前学院大学の看護学科に無事合格しました。3月の終わりに青森に移って、4月から学校に通う予定です。学校の勉強についていけるよう、入学前までに基礎などの復習を頑張りたいです。これまで支援を頂き、とても嬉しく心の支えになりました。今までご支援ありがとうございました。
(M.T卒業生)

この度は娘の合格を祝っていただき本当にありがとうございます。ソロプチミストの皆様にはこれまでの長い間支援を頂き感謝でいっぱいです。親子で不安な毎日でしたが、ようやくほっとでき喜んでおります。まだまだ心配なことも多いのですが、とても励まされました。心より感謝しております。
(M.Tお母様)

会計報告

【収入の部】 寄付金（2011年7月～2012年6月）

※表内のクラブ数は2012年6月現在です。

日本北リジョン 94クラブ	19,737,888円	日本中央リジョン 137クラブ	53,173,802円
日本東リジョン 89クラブ	23,086,795円	日本南リジョン 95クラブ	21,627,195円
日本西リジョン 98クラブ	23,875,331円	国内5リジョン寄付金総計	141,501,011円

ドイツユニオン・オーストリアユニオン・スイスユニオン デンマークユニオン・台湾リジョン (Kaohsiung Bayu) ・ イタリア(SIRevenna)・SIA (SIワトソンビル) ・ オーストラリアリジョン (タスマニア SIホバード) タスマニア個人寄付	海外クラブ寄付金総計 8,912,053円
--	--

絆プロジェクト寄付金総額 170,371,282円

【支出の部】

*自 2011年7月1日 至 2012年6月30日

奉仕事業費	就学支援金	11,340,000
	広報活動費	615,352
	振込手数料	52,395
管理費	支払報酬	205,000
	訪問費用	500,090
	発送料・翻訳料	152,640
2011年度支出合計		12,965,477
差引剰余金		157,405,805

*自 2012年7月1日 至 2013年6月30日

奉仕事業費	就学支援金	36,360,000
	広報活動費	49,560
	振込手数料	152,145
管理費	支払報酬	205,000
	訪問費用	438,936
	発送料・翻訳料	45,880
	身元保証保険料	42,300
2012年度支出合計		37,293,821
差引剰余金		120,111,984

*自 2013年7月1日 至 2014年6月30日

奉仕事業費	就学支援金	52,380,000
	振込手数料	218,568
管理費	支払報酬	205,000
	発送料・翻訳料	72,700
	身元保証保険料	42,300
2013年度支出合計		52,918,568
差引剰余金		67,193,416

*自 2014年7月1日 至 2015年6月30日

奉仕事業費	就学支援金	43,200,000
	振込手数料	181,440
管理費	支払報酬	208,000
	発送料	47,453
2014年度支出合計		43,636,893
差引剰余金		23,556,523

*自 2015年7月1日 至 2016年6月30日

奉仕事業費	就学支援金	18,720,000
	振込手数料	78,624
管理費	支払報酬	208,000
	発送料	37,154
	諸経費 (支援生30周年記念式典出席費用)	109,110
2015年度支出合計		19,152,888
差引剰余金		4,403,635

*自 2016年7月1日 至 2017年6月30日

奉仕事業費	就学支援金	2,700,000
	振込手数料	11,340
管理費	支払報酬	208,000
	発送料	59,515
	印刷費 (報告書)	540,000
2016年度支出合計		3,518,855
差引剰余金		884,780

事業報告

- 2011年 3月 東日本大震災発生
- 2011年 4月 緊急特別会議開催。北リジョン理事会、歴代ガバナーを緊急徴集。今後の対策と、どのような支援をするべきかを協議。奨学金支援を検討。「絆プロジェクト」と名付けられる。
- 2011年 7月 国際大会において「絆プロジェクト」を5リジョン共同事業とすることが話し合われ、5リジョン共同プロジェクト「ソロプチミスト絆プロジェクト～Heart to Heart～」始動。
- 2011年 8月 北リジョン内郵便投票により「絆プロジェクト」決定。絆プロジェクト口座開設。
- 2011年 9月 「絆プロジェクト規程」の草案が完成。理事会、宮城県・岩手県・福島県の3県教育庁を訪問。「絆プロジェクト」について説明。協力を仰ぐ。
- 2011年 9月 30日「ソロプチミスト絆プロジェクト～Heart to Heart～に関する規程」完成。
- 2011年10月 宮城県・岩手県・福島県の教育庁、各市町村教育委員会に絆プロジェクト規程・応募要項、チラシ、ポスターを配布。地域各中学校にはクラブ会員が訪問。第1次募集開始。
- 2012年 3月 第1次支援生決定。岩手県16名、宮城県45名、福島県2名、計63名。
- 2012年 4月 第1回支援開始（63名）。支援金受け入れ口座終了。寄付金総額170,371,282円。東日本大震災・絆プロジェクトDVD作成。
- 2012年10月 第1次支援生63名に第2回支援金送金。
- 2012年12月 第2次支援生募集。当該地域にポスター配布。第1次支援生にXマスカード送付。
- 2013年 3月 第2次支援生決定。岩手県20名、宮城県43名、福島県12名、計75名
宮城県特別枠として高校2年より支援決定2名
第1次支援生63名中2名が事情により支援を辞退。
- 2013年 4月 第1次支援生61名、第2次支援生77名に支援金送金。
- 2013年10月 第2次支援生78名中1名事情により支援を辞退。
第1次支援生61名、第2次支援生77名に支援金送金。
- 2013年12月 第3次支援生募集。334通のXマスカードが届き第1次・第2次支援生にカード送付。
- 2014年 3月 第3次支援生決定。岩手県5名、宮城県9名、福島県1名、計15名。
- 2014年 4月 第1次支援生61名、第2次支援生77名、第3次支援生15名に支援金送金。
第2次支援生77名中1名事情により支援を辞退。
- 2014年10月 第1次支援生61名、第2次支援生76名、第3次支援生15名に支援金送金。
- 2014年12月 北リジョン内48クラブより601通のXマスカードが届く。支援生に送付。
- 2015年 3月 第1次支援生、第2次特別枠支援生卒業。卒業メッセージカードを送る。
- 2015年 4月 第2次支援生76名、第3次支援生15名に支援金送金。
- 2015年10月 第2次支援生76名、第3次支援生15名に支援金送金。
- 2015年12月 北リジョン内60クラブより647通のXマスカードが届く。支援生に送付。
- 2016年 3月 第2次支援生卒業。卒業メッセージカードを送る。
- 2016年 4月 第3次支援生15名に支援金送金。
- 2016年10月 第3次支援生15名に最後の支援金を送金。12月Xマスカード送付。
- 2017年 3月 第3次支援生卒業。卒業メッセージカードを送る。

絆プロジェクト執行 : 2010-2012年期5リジョンガバナー会、2012-2014年期5リジョンガバナー会、
2014-2016年期5リジョンガバナー会、2016-2018年期5リジョンガバナー会

顧問弁護士 : 郡山市 滝田三郎法律事務所 滝田三郎氏

顧問会計士 : 札幌市 川崎・水野公認会計士共同事務所 川崎毅一郎氏



2017年8月発行

発行／国際ソロプチミストアメリカ日本北リジョン

〒060-0807 札幌市北区北7条西5丁目北7条ヨシヤビル3F

TEL011-756-8161 FAX011-756-8162

<http://www.sia-kita.jp/>